

中日ニュース

第二三二号 内容

高野六七号

一、夏はかけ足

北の国のソビエトも南端のクリミア半島はもうすっかり夏模様。ここで夏の休暇を過ごす人達で大賑あいです。明るい海辺をいろどるのがビキニスタイルのお嬢さんであることは共產主義のお国でも変りがないようです。

一方日本も、五十二年ぶりのカラツユで鎌倉や、江の島など海岸の行楽地は大変にぎわいです。早い夏に追いつくのに大わらわの業者たちは、ボートのペンキぬりやよしずばりの準備に追われています。

海辺では気の早いカッパ連が七月の海開きを待ちきれず水しぶきを上げるなど、海のシーズンはかけ足でやって来ました。

☆タカと少年

沼津市の小学校二年生山本知正君は山で捕った生れたばかりのタカを九ヶ月間も大切に育てて来ました。今ではすっかりなついたタカ君は家族と一緒に食事をとり、和正君と一緒にトマリ木にのつて登校します。

授業中は和正君の隣の席で何時間でもおとなしく勉強のおつきあいをしたり、又理科の時間には先生やみんなのお役にたつこともあります。

遊びの時間にも校庭で和正君の側を離れぬという仲のよいタカと少年の話です。

☆めがねのニューモード

直接眼えはめこむ眼鏡のニューモードが、名古屋の日本コンタクトレンズ研究所の水谷博士の手で考案されました。

レンズの大きさは角膜の約三分の二でプラスチック製というこのレンズは入れたりはずしたりするのも簡単です。十三度以下の弱い近視の人にはまだ効果はありませんが、わずらわしい普通の眼鏡と違って人気を呼ぶことでしょう。

一、客寄せ珍戦術

大阪にスポーツ喫茶という変わった喫茶店が出現しました。野球ブームに乗ってテレビのまわりに大がかりなスコアボードを作り、お茶を飲みながらグラウンド気分を満喫していたかどうかという趣向です。

試合の一球一打が球場そのまま一目でわかるスコアボードのいそがしい操作はもつぱら店のご主人が汗だくで活躍。超満員の時は補助椅子も用意してありますが、外野席?としやれこんで外からロハでのぞくお客さんまでで大盛況。

一方東京新宿には軍隊キャバレーが店びらき。敬礼する入口の兵隊さんに誘はれて中に入ると軍歌のバンドに乗って、給仕のボーイ君まで背負った兵隊さんです。

カクテルのメニューも「玉砕」「必勝」など物騒なものばかり。舞台では軍人勅諭のコンクール。但し合格者にはくんしよう代りにビール。やがて軍歌の大合唱が始まれば元将軍殿や下士官殿に、自衛隊の新兵さんまでが加って唄いまくります。

今や軍隊もオサケのサカナ。これも商売の夏枯突破のために……というところでしょう。

一、駆けだしボクサー

胸のすくような激しいパンチの応酬。そしてノックダウン、わきあがる大歓声。

こうした華やかなリングの裏側をのぞいてみましょう。プロボクシングのクラブはこうしたりリングをあこがれて入門したボクサーの卵たちがジム一杯に試合以上の激しい訓練を連日続けています。この中の一人土屋君も入門してから二年、漸く四回戦ボーイとしてクラブ名簿の末席に名を連ねることが出来ました。

土屋君の日課は朝五時のロードワークから始められます。土屋君の本職は左官屋。この方はもう立派な一人前、一日の激しい仕事が終ればボクサーに早変わり。先輩の来ない前に基本練習をみっちり手をとつておそわります。先輩のスパーリングが始まればセコンドの役目を引受けます。このセコンドもただの練習生にはやらせてくれません。

皆が帰ったあとまた一人ジムに残り、鏡に向つての猛練習を行うなど、人一倍の努力を続けています。閉門の時間。わたのように疲れはてた体を駆つて後始末するのめ進の一つ。こうした激しい努力の一つ一つがチャンピオンへのけわしい道を踏破するための条件なのです。

249 220 PV PP PP 92
製作配給 東京中日新聞、中部日本ニュース映画社

(P有)